

## シリア及び地域の支援に関するブリュッセル会合 河野外務大臣ステートメント

2018年4月25日

- 今回の会合を主催したEU、国連に感謝申し上げます。
- 2011年3月のシリア危機発生から7年が経ちました。深刻な人道状況が継続しており、今月には東グータで化学兵器が使用されたとの情報に接しました。化学兵器の使用は極めて非人道的であり、我が国として断じて許すことはできません。このような悲劇は繰り返されるべきでなく、化学兵器が使用された場合の使用者特定のための国際的なメカニズムの設置が必要であり、その実現のため、国際社会と連携していきたいと考えます。
- 議長、私は、2014年にヨルダンのザアタリ難民キャンプを訪問した際、大量のシリア難民の受入れが、寛大なホスト国であるヨルダン、レバノン、トルコ等の社会的、経済的負担となっていることを実感しました。「シリア問題の解決なくして、中東の真の安定はない」ことを強調したいと思います。
- 日本は、シリアの人道状況改善のため、昨年4月の支援会合でプレッジした支援を全て実施しました。これに加え本年、ISILから解放されたラッカ等の新たな支援ニーズを踏まえ、また、シリア周辺国に対する支援も含め、約2.2億ドルの人道支援を実施しました。これをもって、2011年以降、我が国のシリア及び周辺国に対する支援は、22億ドル以上となります。
- 更に、昨日、急激に悪化する東グータを含むシリアへの支援、及びヨルダン、レバノンの難民に対する保健、食料等の分野への支援として、新たに約1,400万ドルの支援を決定したことをお伝えします。この中には厳しい財政状況に直面するUNRWAへの新規支援も含まれています。
- 国際的な人道支援は、困窮する全てのシリア人にタイムリーに届けられることが重要です。このため、我が国は、シリア政府に対し即時停戦と人道支援のアクセス改善を働きかけています。また、昨年12月には当時の安保理メンバーとして、クロスボーダー支援に関する安保理決議第2393号の採択に尽力しました。
- 議長、私は、昨年8月の外相就任以来、中東を日本外交の柱の一つに位置づけ、日本が良き友人として培った信頼の上に立って、中東の安定のために一層の政治的役割を果たしていきます。本日の「シリア支援ブラッセル会合」に日本の外務大臣として初めて参加するのもその一環です。

- 今月初め、私は、ハリーリ・シリア交渉委員会団長を東京にお迎えし、国連主導の政治プロセスの前進に向け、日本として取り組んでいく考えを伝えました。日本は、ジュネーブ・プロセスに積極的に参加するつもりです。我が国は、全てのシリア人が明日への希望を育めるよう、日本は、引き続き、人道、政治面で責任ある役割を果たします。
- 私のスピーチを終えるに当たり、援助疲れについて一言述べさせていただきます。多くの政府が負債を抱える中、なぜ政府は彼らのお金を海外で支払うのかと、より多くの納税者が疑問を覚えています。シリア難民のような人々が抱える困難の軽減を支援することを目的とし、十分な資金を直接的に集めるためにも、国際的な税のようなものをいつかの時点で国際社会は作り上げる必要があります。ありがとうございました。